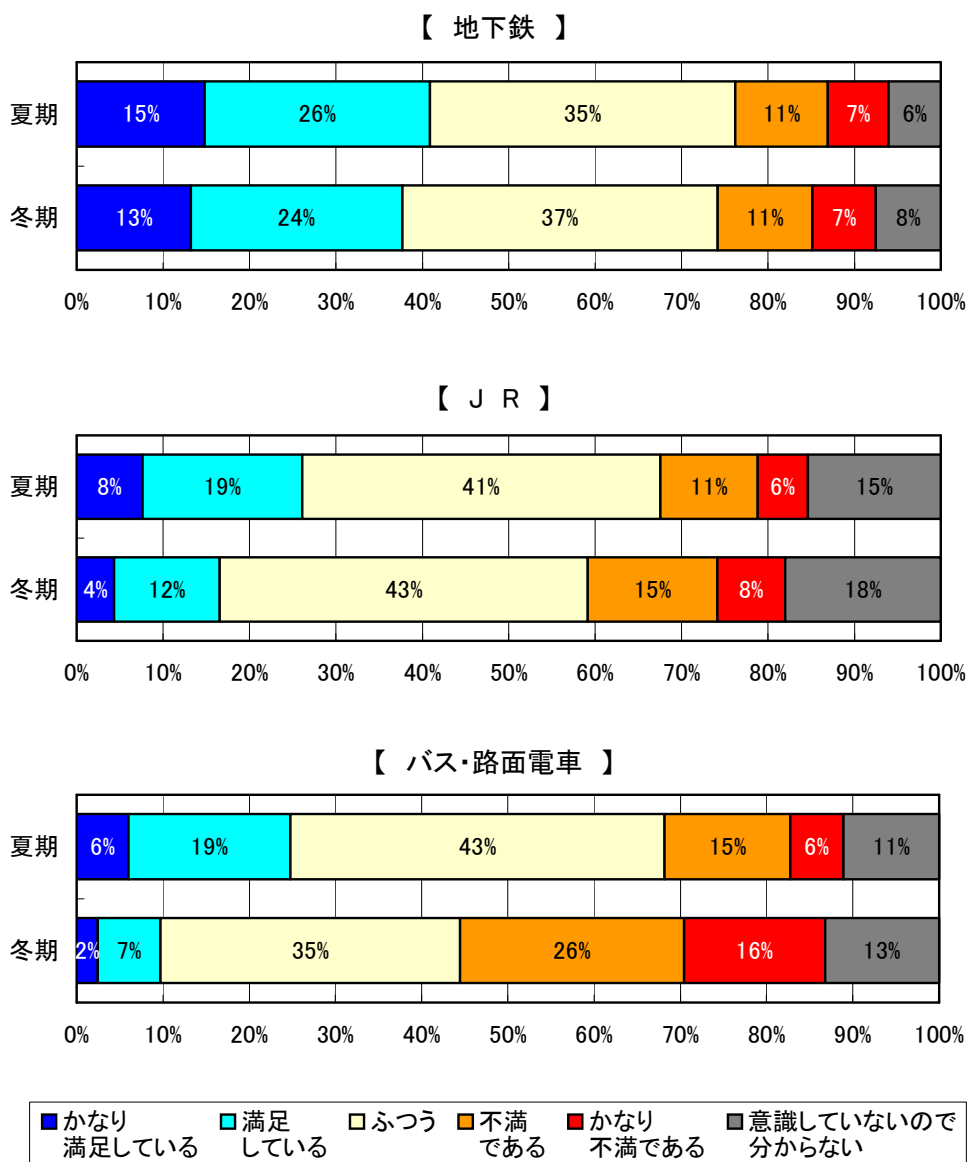


(3) 公共交通の満足度

◇ 季節に依らず地下鉄の満足度は高い。冬期のバスの満足度は低い。

- ・「地下鉄」「ＪＲ」「バス・路面電車」を比較すると、季節によらず地下鉄の満足度は高い傾向にあります。
- ・「バス・路面電車」の満足度は、夏期と冬期で大きく異なり、冬期は４割以上が「不満である」または「かなり不満である」と回答している。



資料：道央都市圏パーソントリップ調査（2006年、ライフスタイル調査）

図 28 居住地域の交通サービス満足度（地下鉄、ＪＲ、バス・路面電車）

(4) バス

◇ バス利用者は減少の一途をたどる。バス事業の経営状況は厳しい。

- ・市営バス事業の民間委譲（H15～16）が行われ、市内路線バスは全て民営となりました。
- ・市街地の殆どを鉄軌道とバスがカバーしています。バス走行キロは、ほぼ横ばいのなか、乗車人員は減少の一途をたどっており、バス事業の経営状況は厳しくなっています。
- ・道路運送法の改正（H14）で路線撤退に対する規制が解除され、認可制から届出制となりました。
- ・札幌市では新たなバス路線維持補助制度を導入（H21）し、生活路線の確保に取り組んでいます。

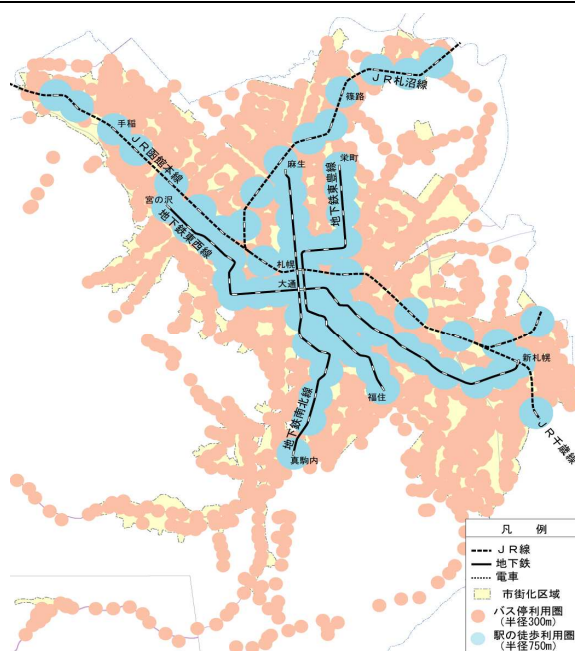


図 29 市内バス鉄道カバー圏

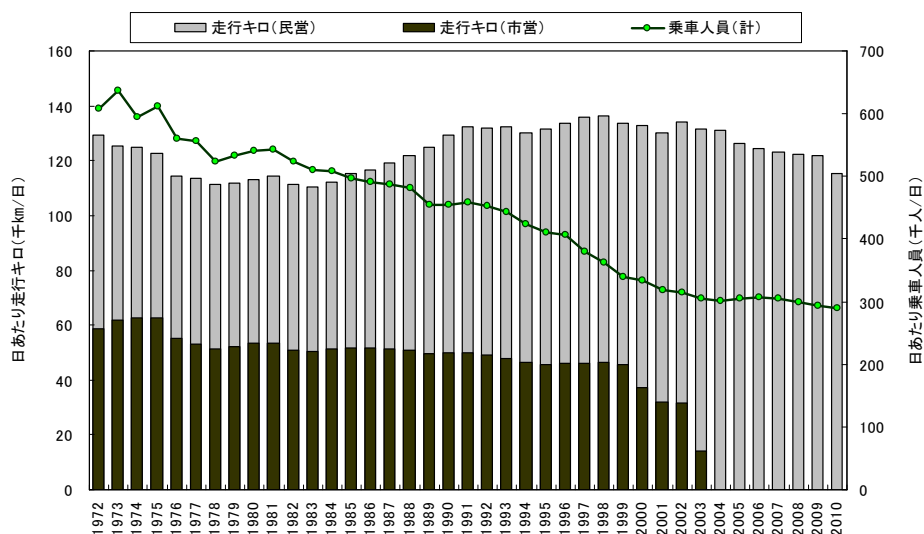


図 30 市内バスの走行キロと乗車人員の推移 資料：札幌市統計資料

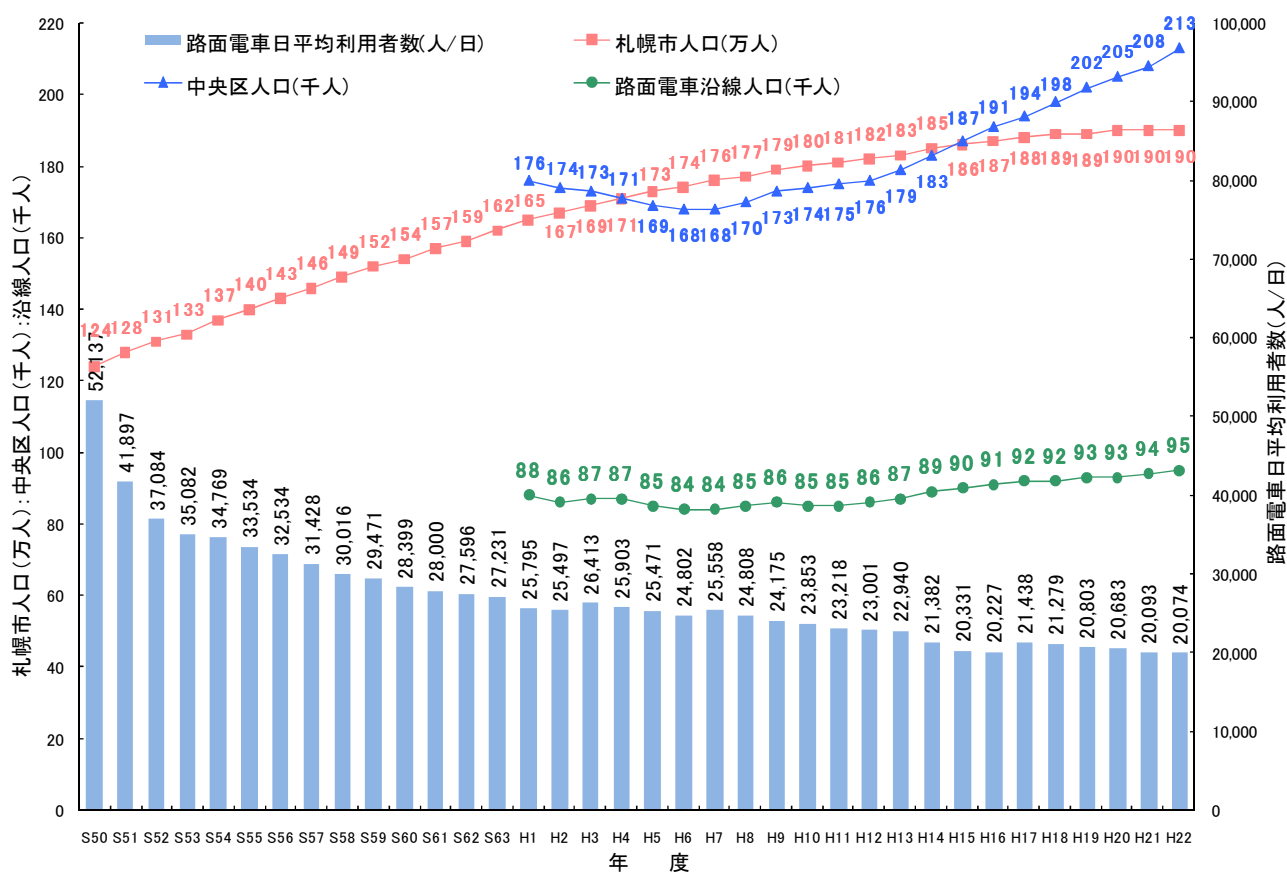


図 31 市内バス路線・停留場（便数別）

(5) 路面電車の状況

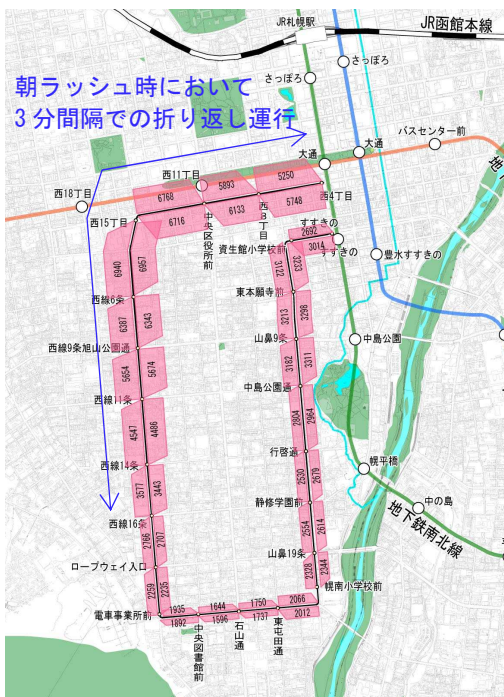
◇利用者の減少は続くものの、地域に必要な交通機関となっており、今後のまちづくりへの活用が期待されている。

- ・路面電車は近年、利用者が減少傾向にあるものの、1日平均2万人が利用し、特に朝ラッシュ時には一部区間（西4丁目―西線16条間）で3分間隔の折り返し運行を行うなど、交通需要が大きく、地域に必要な交通機関となっています。
- ・沿線には藻岩山やコンサートホール Kitara 等の集客施設が点在し、観光客等にとっても重要な足となっています。
- ・高齢者をはじめとした日中の利用も多いものの、施設や車両の老朽化が進んでおり、バリアフリーに対応していない状況となっています。
- ・現在、路面電車は国内外で人や環境に優しい特性等が見直され、交通機関としてだけでなく、将来を見据えたまちづくりへの活用が期待されています。



資料：札幌市路面電車活用方針（2010年（平成22年））、札幌市統計資料

図32 利用人員と沿線人口の推移



札幌市の車両

図 33 停留場間における輸送人員
(2009 年 1 月平日)

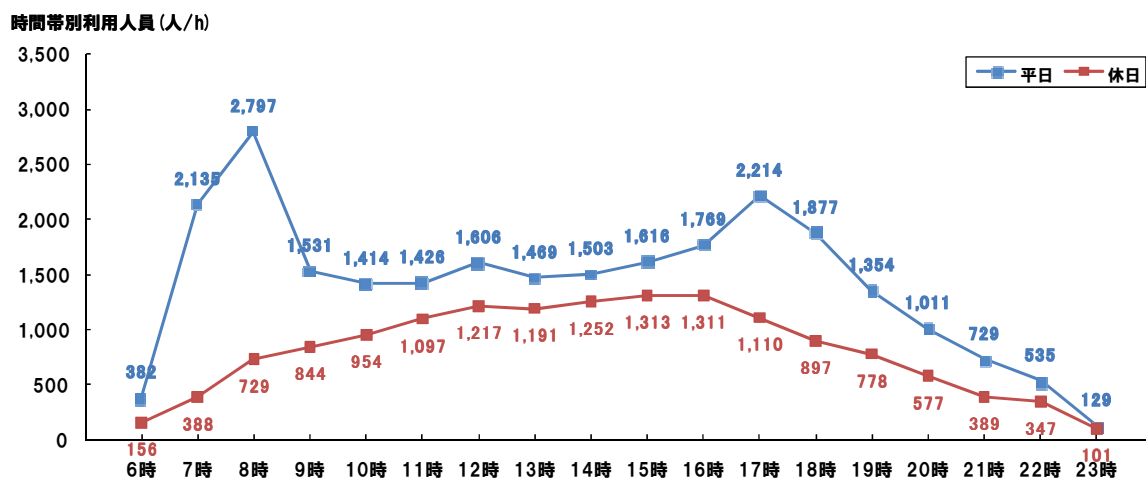


図 34 1 日の時間帯別利用者数の推移 (2009 年 1 月)



フランス・ストラスブール



富山市の低床車両